

高島屋史料館

2015年1月5日[月]—3月27日[金]

前期=1月5日[月]-2月10日[火] 後期=2月12日[木]-3月27日[金]

高島屋史料館 [入場無料] 休館日=水・日曜日

開館時間=午前10時～午後6時 前後期ともに最終日は午後5時閉館

横山大観「神州霊峰図(蓬莱山)」(1950年)〈通期展示〉



高島屋 日本美術院と

〈横山大観たちと育んだ交流〉

馴れ初めは、
1909 (明治42)年、高島屋は、初めての展覧会「現代名家百幅画会」を京都店と大阪店で開催。このとき、日本美術院からも、横山大観や下村観山、菱田春草ほか、10人をこえる画家が出品。これを契機に、大観らの高島屋の展覧会への参加が続き、戦後から今日にいたるまで「日本美術院」との交流が深まっていくこととなりました。
約100年前の展覧会でした。

東海道

五十三次絵巻(複製)

この絵巻は、第2回再興院展があつた1915(大正4)年横山大観、今村紫紅、小杉未醒、下村観山の幹部4人が東海道の脚をし、泊まりをかさねて宿場の風光を写生して、五十三次絵巻全八巻を二組完成、内一組を大阪高島屋に於いて展覧し、評判となりました。当館には複製のみが伝わり現在は現在、所在不明。もう一組のほうは原三溪が入手し、現在は東京国立博物館で所蔵。

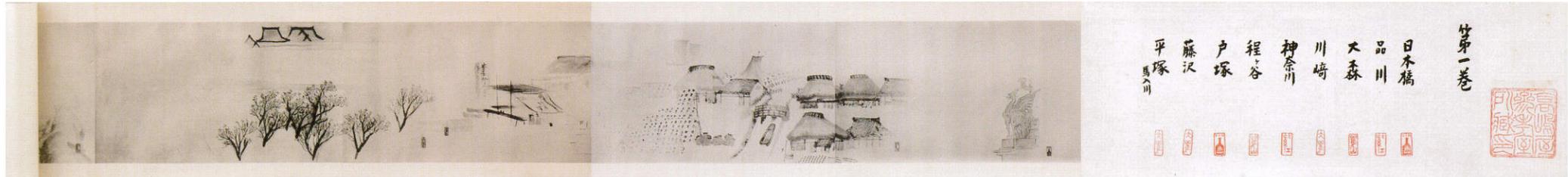
前田青郵談

「振り出しはお決まりの日本橋です。藤沢の駅の前に粗末な宿が最初の泊まりです。旅装を解く、一風呂浴びる。すぐ日本橋からこつち藤沢まで描かなくちゃならない。クジをこしらえてね、いの一振りに振り出しの日本橋が小杉さんに当たった。小杉さんは弱った弱つた、しきりに頭を掻いていましたっけ。今村君は若くもあつたけれど、とにかく横山さんやなんかと一緒にの美術院の創立者であるでしょう。横山さん、下村さんに負けないでぐんぐん描いて行くだ。品川のお台場のところなど見ていてとてもおもしろかった。筆をつけると見るみるお台場が出来ていく。うまいもんだと思つた。」

横山大観談

「観山、未醒、紫紅とわたしの四人で東海道五十三次の絵巻を描く道中をした。四日市まで来た。金が尽きてどうにもならなくなつた。そこで大阪の高島屋へ電報を打つたところが、谷上君が早速金を持って駆けつけてくれてホツとした。そして最後が嵐山だったか三軒家までたどりつくことが出来た。」

(高島屋美術部50年史(昭和35年)より抜粋)



第一巻(レプリカ) / 日本橋(未醒)・品川(紫紅)・大森(観山)・川崎(大観)・神奈川(紫紅)・程ヶ谷(観山)・戸塚(未醒)・藤沢(大観)・平塚(大観) <前期展示>



〒556-0005
大阪市浪速区日本橋3-5-25
高島屋東別館 南側入口3階
TEL(06)6632-9102

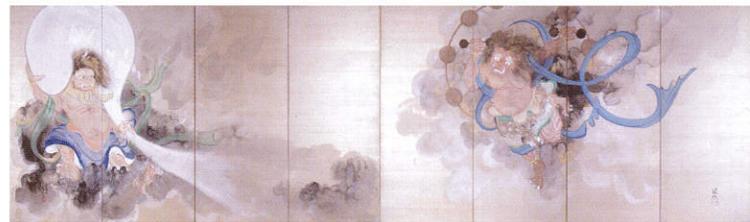


第八巻(レプリカ) / 水口(未醒)・石部(観山)・草津(大観)・大津(未醒)・京都(紫紅) <後期展示>

「五浦月皎」大団扇原画
(2014年) <通期展示>



松尾敏男
財団法人日本美術院 理事長(第五代)。
平成23年に理事長に就任、高島屋では、本作品以外にも大団扇や飾り扇子などの原画を依頼しています。



富田 溪仙「風神雷神」(1917年) <前期展示>

京都や大阪からも参加者

再興当時は、東京画壇の革新派的イメージで見られていた日本美術院ですが京都の富田溪仙や大阪の北野恒富、中村貞以のように関西在住の画家たちも参加していました。